

# 令和2年度 生駒市環境モデル都市及びSDGs 未来都市推進協議会

## 【議事要旨】

日時：令和3年3月18日(木) 10:00～12:00

場所：生駒市役所 401、402 会議室

### 1. 配布資料

- 資料1：環境モデル都市及びSDGs 未来都市推進協議会会員名簿
- 資料2：令和元年度 生駒市環境モデル都市 取組実績
- 資料3：環境モデル都市における令和元年度の取組の評価結果
- 資料4：令和2年度 生駒市環境モデル都市 取組進捗状況
- 資料5：SDGs 未来都市等進捗評価シート
- 資料6：(仮称) SDGs 協創ネットワーク
- 資料7：いこま市民パワーの取組
- 資料8：複合型コミュニティのイメージ
- 資料9：令和2年度 複合型コミュニティの活動報告

### 2. 受領資料

- なし

### 3. 協議会出席者

区分	所属	氏名
会長	大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 教授	下田 吉之
副会長	エコネットいこま 代表	矢田 千鶴子
委員	奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授	横田 明徳
委員	一般社団法人 市民エネルギー生駒 代表理事	楠 正志
委員	生駒商工会議所 専務理事	大原 暁
委員	社会福祉法人 生駒市社会福祉協議会 課長	宮西 泰介
委員	いこま育児ネット 代表	清水 綾
委員	関西電力送配電株式会社 奈良支社 総務部奈良コミュニケーショングループ リーダー	正木 紘一
委員	大阪ガス株式会社 エナジーソリューション事業部 業務部 マネジャー	片山 史士
委員	近鉄不動産株式会社 経営企画室 部長	津石 哲志
委員	奈良交通株式会社 経営戦略室 統括部長	松本 英喜
事務局	生駒市地域活力創生部長 生駒市市民活動推進課長 生駒市 SDGs 推進課長 生駒市 SDGs 推進課主幹 生駒市 SDGs 推進課 SDGs 未来都市推進係長 生駒市 SDGs 推進課 SDGs 未来都市推進係員	領家 誠 梅谷 信行 竹本 好文 木口 昌幸 上野 貴之 地頭江 祐希

## 4. 議事録

1. 開会	
2. あいさつ	
3. 会員紹介	
4. 案件	
(1) 役員を選任	
事務局	・役員が2年の任期満了を迎えたことから、次期役員を選任について、引き続き会長には下田様、副会長には矢田様を推薦させていただきたいと考えている。
各委員	・異議なし
事務局	・会長に下田委員、副会長に矢田委員を確認。 ＜会長、副会長席に移動、着席＞
下田会長	・SDGs 未来都市に選定されたことを受け、本協議会の中に SDGs の推進に関する事項が追加されて初めての開催となる。SDGs はいろんな観点からの議論が必要になってくるため、忌憚のない意見をお願いしたい。
(2) 令和元年度 環境モデル都市の取組の進捗状況と今後の取組予定について	
事務局	資料2～4、7～9について説明。
下田会長	・温室効果ガスの計算をするときに、電気は関西電力、ガスは大阪ガスだけで計算すると、自由化分が考慮されていないため、減るのは当然。それは本当に減っているのではなく、他の事業者から供給を受けている話になると思うが、そこはどう考えているのか。
事務局	・市域に供給されている全電気・ガスを全ての事業者を確認するのは事実上難しい。 ・電気は関西電力から提供いただける数値を基に仮に算出している。今年度の4月から関西電力送配電株式会社に電力の送配電に係る部分が一元化されるため、今年度分から電気の調達量についてデータをいただくと聞いており、今後は正確に把握できると考えている。
横田委員	・資料3の9ページ、それぞれの部門から排出されるCO <sub>2</sub> について、これはどういった調査をしているのか。
事務局	・基本的には統計から数値を用いて算出しており、市単位で出ていないデータは、奈良県の人口から按分している。
横田委員	・市民生活は部門だけではないと思う。SDGsは17のきめ細やかな設定がされているため、従来の基準や各部門での化石燃料の使用量だけで算出するのではなく、もう少し別の見方をして、生駒方式があってもよいのではないかと思う。
楠	・資料7の再エネ比率について、2025年に民間バイオマス発電所2号機を加えて39.5%になっているが、これは再エネ比率の中でも、地産のウェイトなのか。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再エネ率そのものについては、エネルギーを変えることによって実際に2021年度から増加してくると思う。2025年にこの民間バイオマス発電所を地産でやっということなので、再エネの地産率が約40%というのはわかるが、どういった状況か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年後の見通しとしては、全て地産の再生可能エネルギーで調達することが計画に書かれている。令和元年度の実績として再エネ比率が10.4%となっているが、その中では、大東市ですでに運転されている木質バイオマス発電からの調達電力が約7%を占めている。厳密にいうとその部分は地産ではないが、その部分も生駒市内で木質バイオマス2号機の運転が開始したら、地産の電源に変えていきたい。5年後については、すべて地産の再生可能エネルギーで賄っていきたくて考えている。</li> </ul>
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やはり地産にこだわるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災や環境の観点からも地産がいいと考えている。</li> </ul>
下田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の非常用電源という意味では、地域の中に発電所を持っておく必要があるが、それはどちらかというと太陽電池でやると電池が必要になってくるので、コージェネレーション、バイオマス発電というものではないかと思う。</li> <li>・100%地産である必要はない。平常時に比べれば必要な電力だけを賄えればいい。</li> <li>・カーボンフリーにしていくという意味では、他市町村と連携して再エネ発電をするなど、これからの方向としては考えられるのでは。</li> <li>・生駒市のバイオマスはある程度有望だと思うが、どれくらいのポテンシャルがあるのか。農地もあるので、農業系の廃棄物がある程度資源としてあると思うが、燃やすほうがいいのか、メタン化、バイオガス化する方がいいのかも含めて、生駒市のポテンシャルを把握する必要がある。</li> <li>・カーボンゼロにすることなら、生駒のポテンシャルを使い切って、足りなければ、どういうところからどういったものを使うのかご検討いただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマス発電に使用される燃料については、基本的に、すでに大東市で運転されている発電所で使用されているものと同様のバイオマスが、生駒市でも使用される。概ね50km圏内から調達される、建築資材廃棄物、一般廃棄物が主な燃料として使われる予定。生駒市で運転される発電所のため、市内から出る剪定枝、刈草なども燃料に使ってもらいたいと考えているが、量的に市内のバイオマスで賄える部分は限定的だと考えている。</li> <li>・太陽光発電の設置候補地については、令和元年度にいこま市民パワーの新しいエネルギーモデルの検討業務を実施した際に、調査・検討を行ったが、具体的な候補地の選定まで至っていない。</li> <li>・細かな発電所を各地に分散的に整備していくのではなく、まとまった土地が確保できれば整備していきたいと考えている。</li> </ul>
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>生駒山の風力発電のポテンシャルはどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去に検討されたようだが、その時点では発電に必要な風量が得られないため難</li> </ul>

	しいと結論がでた。過去のことなので、現在どうかというのはわからない。
横田委員	・風力発電は9m/秒が理想だが、生駒市の気候は安定しており、3~4m/秒くらいで、あまり期待はできないといわれている。山の中に谷が多いので、風速を測る場所によっては、かなりいい場所がありそうな気がする。資源をもう少し詳しく調べた方がよい。
楠委員	・いこま市民パワーの基本の方針の中にも出ているように地消は、昨年9月から一般家庭への供給を開始した。生駒市は全国的にみても太陽光発電システムの設置率が高い。地産は、2019年から家庭のFITが切れてきていることから、そういった人をいこま市民パワーが買い取り、再生可能エネルギーの比率を上げていく。 そうすることで、市民も喜び、それが熱源になる。地産地消にもつながり、再生可能エネルギー比率の向上がSDGs未来都市の実現につながる。 ・バイオマスも期待できるが、それ以外のところでも地道に市民の理解を得ながら、やっていく必要がある。
矢田副会長	・資料7、再エネ比率について、2019年に一度増加し、2020年2021年と減少しているが、これは供給量が減少したために下がった数値なのか、供給量が増えたために絶対的な数値としての変化がでたのかどちらか。
事務局	・バイオマスからは、毎年約2,000MWhを調達している。
矢田副会長	・供給先が増えたために比率が下がったということか。
事務局	・その通り。
矢田副会長	・資料4の地産地消サイクルの構築に向けた取組について、レジ袋の持参から10年以上に渡り、地域の協力業者の方と意見交換会を毎年実施してきた。食品ロス削減運動を食品スーパーに広げていくのであれば、意見交換会をもたれてはどうか。
事務局	・今年実施することができなかったが、まだ協力いただけない店舗も複数あるため、職員が直接伺って、協力依頼を行っているところである。また、随時そういった会合をもたせてもらいたい。
矢田副会長	・ほかのスーパーも当初、レジ袋の有料化に相当反対があったが、会合の中で、世の中の流れとして理解していただいて、本部と掛け合っていたという例もある。お互いを知る機会を設けてもらいたい。
大原委員	・レジ袋はどこの課がしているのか。
事務局	・レジ袋削減の直接的な担当は環境保全課が担当しており、平成25年から市内のスーパーではレジ袋の有料化を行っている。
<b>(3) 令和元年度 SDGs 未来都市の取組の進捗状況と今後の取組予定について</b>	
事務局	・資料5について説明。
横田委員	・資料5の3ページ、全体計画の「農業の振興」の毎年の新規就農者数について、どういう分野の作物、どういった人が新規農業者となっているのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部からの新規就農者を募集したいということで農林課が、人材派遣会社がやるような展示会に足を運んでいる。そこでスカウティングをし、興味があるといった人については、農業振興協議会と連携し、農地案内やその中でさらに具体的に農業について基準を満たしたものが数値として表れている。</li> </ul>
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔の農業は長い歴史の中で培ってきた技術を用いて行っているのに対し、最近の農業はエネルギーを使用している。生駒市として、新規就農者がどういった農業を目指すのか、生産性の高い高付加価値の農作物をつくるときに、いかに省エネの農業ができるのか、化石燃料を使わない新農業の形を提案できるのか、興味深い分野だと思う。</li> <li>今は最新の AI や IoT 活用だけでなく、化石燃料を燃やして、高付加価値のものをつくる農業があるが、SDGs の観点からみると方針を変えないと、新規就農者をただ増やすというだけでは、良くない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者はまず早期に収入を安定させる必要がある。ハウスで行っている場合は熱源の問題もあるため現状を把握したい。</li> </ul>
松本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業について、研究をしたことがあるが、いちごから始める人が多い。ハウスを建てることは、エネルギー面でも課題がある。</li> </ul>
片山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハウスの暖房に燃料を燃やしているためエネルギーが必要なのか。</li> </ul>
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>いちごは、葉の病気を治すためや光合成のために、CO<sub>2</sub> を多く必要とする。</li> <li>燃料代の経済的なロスもあるため、省エネでサステイナブルな農業に変えていく必要がある。</li> </ul>
宮西委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者支援に関して、コロナの影響で参加が減少しているが、徐々に解消されてきている。閉じこもっているよりは出ていきたいという希望も多く出てきているため、今後は増加していくと考えている。</li> </ul>
清水委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナで小さい子どものお母さん方はいろんなストレスを感じている。制約はありながらも、利用できる環境を整えてくれているのはありがたいと感じている。お父さん向けの取組もあり、引き続き取り組んでほしい。</li> </ul>
津石委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>KPI に対して、達成するための具体的な取組が書かれていればいいと思う。</li> <li>今後は SDGs と DX を絡めることで、KPI の達成度が加速されるのではないかと思う。</li> </ul>
<b>(4) SDGs 協創ネットワークの形成について</b>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料 6 について説明。</li> </ul>
楠委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動推進センターを母体として、連携しながら展開していくのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動推進センター登録団体とも連携して行っていくが、企業、学校関係の方にも入っていただくため、別のネットワークとして形成される。</li> </ul>
大原委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>生駒市で新たに参加メンバーを集めて、NPO の立ち上げまで行うのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>当初は考えていないが、SDGs 市民会議を立ち上げ、市と連携しながらネットワークを運営していきたいと考えている。</li> </ul>

5. 事務連絡

6. 閉会

以上